

## 戦争のお話 「伸(しん)ちゃんの三輪車」

2020. 8. 8

夏休みに入り、みなさんはどんな本を読んでいますか。

先日、ある新聞に「伸ちゃんの三輪車」というお話がしょうかいされていました。新聞にのっていた文を少しかえて紹介します。

1945年8月6日。この日は、広島に原子爆弾(げんしばくだん)がおとされた日です。鉄谷(てつたに)さん(36歳)の長男、伸一ちゃん(3歳)が、家のまえで三輪車にのってあそんでいるとき、爆弾が落ちてきました。

家は焼けてしまい、伸一ちゃんは体じゅうにやけどをしました。そして、「水…、水…」とうめきながら水をほしがり、そのよる、死んでしまいました。次の日、焼けた家のあとで、燃えて、ほねになってしまった7歳の長女と1歳の次女を見つけました。骨になってしまった自分の子ども2人を見た鉄谷さんは、死んだ伸一ちゃんまで焼く気持ちにはなれませんでした。

伸一ちゃんといっしょにあそんでいて死んだ、お友だちの「きみちゃん」と手をつながせ、三輪車といっしょに、家の庭にうめてやりました。

2人をうめてから40年後。鉄谷さんは、思い切って地面を掘りおこし、2人のお葬式をおこないました。伸一ちゃんと、きみちゃんは、お骨になっても手をつないだあとがのこっていたそうです。

\* 文中の「新聞」は、朝日新聞(大阪本社版・8月6日付け朝刊)です。

その他、Web ページの絵本紹介文を参考にしました。

絵本は「伸ちゃんの三輪車」(童心社)より発行



**焼けた伸一ちゃんの三輪車**

広島平和記念資料館に展示されています。(写真はWebより)